



発行・京都障害者スポーツ振興会  
題字 芝田 徳造

# 障害者スポーツのつどい

## ボランテニア体験会

島津アリーナ京都

(京都府立体育館)

スポーツ振興担当

南條 良樹

「障害者スポーツのつどい」は、ボランテニアスタッフの活躍でその活動が支えられています。毎回30名程のスタッフが、企画や準備・活動の指導や監視・後片付け等の運営に携わられています。障害をお持ちの方々に充実したスポーツ活動を展開してもらえよう、創意工夫と温かい対応で参加者をお迎えされており、その献身的な活動を観ているといつも頭が下がる思いで一杯になります。

今回11月10日(日)に「ボランテニア体験会」を開催しました。「障害者スポーツのつどい」のボランテニアは、いつでも参加いただけるようスタッフの皆さんに体制を整えていただいております。しかし、ちらし

等で広報しても、新たな参加者がほとんど無い状態が続いておりました。いつでも参加できることが、参加される方にとっては、案外、参加しにくい状況になってきたのかもしれない。そこで、「年1回「ボランテニア体験会」を実施する方が良いきっかけになるだろう」ということで、体験会を企画されることになりました。参加申込は、事前に体育館へ電話していただくようにしました。その受付を何件か私の方でさせていたいただきましたが、お話しさせていたるところがあまりありませんでした。「ちらしを見たので受付してください」と申込みされた方もおられました。自分でも出来るだろうかと「障害に対する専門的な知識はない」「運動が苦手だ

「人と関わるのが少し苦手」等々、ボランテニア活動はしたいものの自分にその能力がないことに気がかき、一歩が踏み出せない様子でした。当然、専門的な知識があり、運動が得意で、誰にでも親しくお話しできるほうが良いと思います。しかし、ボランテニアを始めようとしていく時に、全てその能力を有する必要があるのでしようか。むしろ、「ボランテニア活動してみたい」という気持ちを持つていることのほうが、何よりも大切だと思えます。人には様々な「持ち味(良さ)」があります。しかし、その「持ち味」はなかなか見つけにくく、自身では気づきにくいものです。スタッフの方々をみると、活動の仕方、係わり方は様々で、活動を続けていくうちにその人独特の持ち味が現れてくる。言い換えると、活動することにより自らの持ち味を自らが発見し、また、その持ち味をさらに活かすために専門的な知識を身につけておられるように思えます。

お陰様で、体験会にはこの名の方に応募いただき、今回も名の方に参加いただき、最初は、緊張された様子でしたが、各持ち場で活躍されることも、他のコーナーにも参加される等、充実した体験をしていただいたように思います。今後とも「持ち味」を発見され、自らも「継続して活動され、自らの」と共に、ますますご活躍されることを期待いたします。

前田 恵美

今回、ボランテニア体験会に参加させていただきました。体育館の扉が開くの扉の前で今か今かと心待ちにされた様子を目にしました。それぞれに好きな種目を選び身体を動かす喜び、楽しさを味わえること、そして、たくさんのお会いや交流ができること、それは理屈なしに生活の中での潤いであり生きる喜びだなぁと感じました。障害のあるなしにかかわらず、一緒に楽しむ場があることは本当に素晴らしいと思えました。

(裏面へ)



行事予定	12月	14(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは
		18(土)	ゆうあいボウリング大会	サンケイボウル 福知山市(予定)	
		19(日)	258回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	1 / 12
		26(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
			第11回京都障害者チャンピオン卓球大会	京都市障害者スポーツセンター	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL / FAX 075 - 712 - 7010	第2日曜日
<a href="http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/">http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/</a> (2013年11月30日に一部更新)					

